

# 2019年度事業報告

社会福祉法人 嬉 泉

## 1. 事業概況

### (1) 法人全体

本年度は、本法人にとって大きな試練を課せられた苦難の年であった。台風15号の襲来による主に嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦への甚大な被害と長期の停電が、利用者と保護者、職員の生活を逼迫させたことに始まり、9月末に予定されていた第1回嬉泉ふれあい祭りバザー（これは従来の嬉泉祭りバザーとふれあい祭りを併せてリニューアルした地域交流の要となる行事として開催するはずであった）も中止を余儀なくされた。そして10月14日には、須藤祐司前理事長の逝去という大きな悲しむべき出来事があった。

こうした非常事態の中で職員はよく結束し、一つ一つ事態を乗り越えてきた。台風襲来時は、道路の遮断で通勤のおぼつかない職員が、施設に泊まり込んで勤務を守ったり、自宅も被災しているにも関わらず、施設に出勤したりと、利用者の生活が成り立つようにしてくれ、2週間に及ぶ停電期間を乗り切ることが出来た。また12月8日には、法人内全事業所から職員有志が集い、袖ヶ浦敷地内の倒木撤去や、汚泥の堆積した側溝清掃を挙行し、復興に一役買った。須藤前理事長の逝去に際しても、理事会の主導のもとで、直ちに石井新理事長を中心にした後継体制が形づくられ、大きな混乱もなく事業の継続がなされた。

その、本年度の事業数は全25事業であり、また職員数は、常勤353人、非常勤128人の総勢481人となった(令和2年3月31日現在)。引き続き、運営体制の合理化に向けた管理システムの拡充と、職員の資質の向上を目指して研修体制の充実を図る中で、再構築した人事考課制度の本格的導入を行った。これは、それに先行して導入したキャリアパスと連動するもので、「人材育成主義型人事考課」と位置付けられる。導入に当たっては、経営管理室によって「人事考課の手引き」の作成や、それに基づいての事前レクチャーが各事業拠点の管理職クラスに対して実施された。更にそれを年度末の職員全体研修の場で説明し、法人全体で共有する機会を持つことが出来た。

職員採用においては、経営管理室採用係がよく機能し、総体として求職者数が他法人に比べて多かったことと、同時に離職者数も全体として前年度から減ってはいないものの、少なくとも人材の確保という課題に対しては一定の成果が見られた。その中で特筆すべきは、採用係とリクルーターによる募集活動に応募してきた人材を、各事業拠点の現場のマネジメント担当者につなぎ、そこでの連携を密にすることで適材適所の採用をスピーディーに実現できたことである。今後は更に、そこから育成活動へとシームレスに連携することで、早期離職の防止という次なる課題に取り組むことが望まれる。

施設整備としては、前年度に着工した袖ヶ浦ひかりの学園の生活棟増改築及び地域支援棟新築事業が5月に竣工し、袖ヶ浦市長始め地域の関係者を招待しての「お披露目会」が7月20日に行われた。

## (2) 各事業拠点

1) 「子どもの生活研究所」の療育部門は、めばえ学園、おおらか学園、東京都発達障害者支援センター、さらに保育所(すこやか園・宇奈根なごやか園)などの事業所の実質的な運営を有機的に連携させた「クローバーシステム」を基盤として、子どもの生活研究所こぐま学園、特定相談支援事業所との関係も含めて法人内の他の事業との協力体制を図りながら、事業運営を行った。社会福祉法人嬉泉の基幹となる療育・保育の実践学習の場として、受容的交流理論の継承・発展に取り組み、職員の質的向上務めると共に、法人の職員研修の場としての位置づけを更に強化し、且つ積極的に人事交流を展開した。また、社会福祉法人の責務として、世田谷区の世田谷区社会福祉協議会が設置する「社会福祉法人地域公益活動協議会」に参画し、地域における公益的な取り組みを実施し、世田谷区内で児童発達支援センター事業や相談支援事業などを通して中心的に関わった。また、保育部門拠点と連携・協力し運営を行った。

相談支援事業所は、めばえ学園、おおらか学園、赤塚福祉園の利用者の利用計画を作成し、サービス利用を援助するとともに他事業所利用の区民のサービス利用計画作成等の援助を行った。こぐま学園は自主運営の通所療育機関として、年齢や、地域、所属先にかかわらず、専門的な療育支援を発達障害児・者、及び家族への支援を実施した。めばえ学園は、児童発達支援センターとして受け入れの幅を広げると同時に多様なニーズに対応し、乳幼児期の療育をさらに強化していけるように、幼児期の療育意義の啓発、普及に努めた。おおらか学園は、分園を解消し、定員を20名に戻したが、稼働率は100パーセントを超えて利用があったため、増収させることができた。東京都発達障害者支援センタートスカは、相談支援と区市町村の発達障害者支援体制整備に向けてのバックアップの二つの柱で運営した。相談支援では、実相談人数2751であったが来所・電話相談に至るケースは30%強であった。区市町村全域に置いてライフサイクルを通しての支援体制の整備に向けて各々工夫し多様な取り組みを実施し始めていることを実感した。

2) 「子どもの生活研究所」保育部門は、毎月、拠点場長・園長・副園長・事務主任による法人保育部門会議を開催することで、情報交換・共有を行い、管理運営面での強化を図ることができた。年度末においては場長に替わり理事長が保育部門会議に出席し、法人における管理運営面での情報共有を行った。また、2019年10月に発生した台風による水害対策の一環として取られた休園措置や同年10月より開始された保育料無償化、さらにはそれに伴う副食料費の徴収等、これまでの重要事項説明書にない対応が求められたことから見直し作業を行い、保育料無償化に伴う副食料費請求と災害警報発令時における対応について明記すると共に、各園の現状を確認し合い、より有用なものになるよう努めた。

保育に関しては、「子どもが主体性を持って、自発的・意欲的に友達や保育者と関わることを進めると共に、相互の信頼関係を土台として、様々な体験を積み重ね学び合う」という受容的交流理論に基づいた保育を行った。保護者支援においては、子どもの保育との密接な関連の中で送

迎時の対応・相談や助言・連絡や通信、会合や行事など様々な機会を活用して行った。また、配慮や支援を必要とする家庭においては、法人・各関係機関との連絡・連携を密に行い、その家庭にとって有益となるよう支援に努めた。地域に開かれた保育所として、地域の親子への支援を目指し、すこやか園では『すこやか広場』との交流を多く持った。すこやか園分園クジラは、世田谷区保育課と連絡を取り合いながら、保護者に丁寧の説明を行い、保護者や児童が不安を抱くことなく閉園することができた。年度末における新型コロナウイルス感染症に関しては、感染拡大防止対策の実施、及び行事を一部中止または縮小など形を変えることで対応した。

3) 「嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦」は、前年度は離職者が増えてしまったが、今年度はほぼ横ばい状態である。やはり、利用者の生活を24時間に渡り支えていく入所という形態は、業務量の複雑さや多さなどが原因として考えられる。キャリアパス制度を今年度は導入したが、まだ活用しきれていない部分があり、この制度を利用することで業務へのやりがいを再確認できるようにしていく必要がある。また、今年度は台風被害など想定していない事態が発生し、今までの備えでは補うことが出来ないものであり、今後の検討課題としたい。

袖ヶ浦のびろ学園は、年度内の新入園児は、6名（措置2名、契約4名）であった。家庭や学校と連携を取り、学校生活への適応や家庭帰宅の調整を個別に行い、学園だけではない本人の社会生活を維持する中での入所施設支援体制をとった。袖ヶ浦ひかりの学園は、増改築事業は、「入所者のQ.O.L.向上」「高齢化対応」「地域支援の拡充」という3つのコンセプトの下で、完全個室化及びバリアフリー化された「生活棟の増築」、医務、厨房、整理室の拡張による居住サービス強化としての「既存スペースの改修」、生活介護（通所利用対応部分）及び短期入所希望者の増加に応じて専用スペースを設ける「地域支援棟の新築」の3工事業が昨年度より着工し、工事がほぼ完了した。現在、最後の「既存スペースの改修」が進行中である。地域生活支援センターたのしみは、袖ヶ浦市指定による「特定相談支援事業」「障害児相談支援事業」及び、千葉県指定による「一般相談支援事業」の指定を受けて事業を行った。また、袖ヶ浦市から袖ヶ浦市社会福祉施設等連絡協議会が受託した市の障害者相談支援事業に相談員を派遣し、地域の障害児（者）への支援を行った。袖ヶ浦市福祉作業所うぐいす園は、利用者との関係性を深め、利用者自身が意欲をもって通所することが出来る場となるように努めた。利用契約者はどちらの事業においても増加している。

4) 「板橋区立赤塚福祉園」は、福祉園全体では、責任者クラスの職員による運営会を組織し、福祉園全体として、一体的な運営に努めた。また、デイセンターきららの自主製作品とワークセンターはばたきのラスク等の統一ブランド「ATB」については、ロゴマークのデザインを一新、ラスクについても包装用の袋や箱などをリニューアルした。その結果、板橋区内外のイベント等への積極的な参加を通じて、ブランド力の向上及び販売活動の強化を図ることができた。

デイセンターきらら（生活介護事業）においては、介助用リフトやアシストスーツなど介助用備品を積極的に購入することで、利用者の介助への安心感を高めるとともに、職員の心身の負担の減少や福祉業界全体にわたる人手不足を補う対応を行った。ワークセンターはばたき（就労継続支援B型事業）においては、年度末にかけて、新型コロナウイルス感染拡大による感染防止

対策で、イベントやキャンペーン等の中止、自粛が相次ぎ、ラスク販売や企業からの受注作業依頼が減り、工賃も約半分に激減するという深刻な状況がみられている。赤塚ホーム（緊急保護事業）については、近年、介護者の高齢化に伴う急な入院、障害児を中心とした家庭内の問題等により、長期利用を要する利用が増加しており、短期入所事業利用までのつなぎとしての利用を含め、板橋区との調整を要するケースが増えている。板橋区との関係については、合同で「二次避難所（福祉避難所）開設訓練」を実施し、開設までの流れの確認、課題などを確認することができた。また、区立福祉園の民営化の検討については、検討の進捗状況及び今後の予定について、利用者・家族向けに説明会が開催された。2020年度には板橋区としての方針が示される予定である。地域との関係においては、地域包括ケアシステム「板橋区版AIP」の支えあい会議下赤塚に会議体の構成員として参画するとともに、板橋区社会福祉法人施設等連絡会の活動については、地域公益活動としてのフードドライブへの協力など、積極的に参加した。

5) 清瀬市子どもの発達支援・交流センターは、「地域と連携・交流しながら地域にくらす親子をささえる」を基本理念として、法人が長年にわたり培ってきた実績に基づく理念「受容的交流」や、現スーパービジョン体制の下に心身の発達に遅れやかたよりのある子ども、さらに社会生活上何らかの問題を持つ子どもの相談・訓練指導を通して成長・発達を援助し、地域での育ちを支えることを目的とし運営を行った。また、対象となる本人や家族だけではなく、その方を取り巻く関係者への支援をする等、地域の支援力の向上に努めると共に、相談・療育・支援の場の提供だけではなく、地域療育の拠点となることを目指し、地域活動にも積極的に参加をしながら連携に努めた。

6) 「大田区立こども発達センターわかばの家」は、心身の発達に遅れや偏り、またその疑いのある就学前の乳幼児に対し、基本的な自立の育成と集団生活への適応を高めることを目的とし、早期に必要な支援を行う施設として、区の定める運営方針に基づき「乳幼児の支援」「保護者との連携・支援」「関係機関との連携」「地域と触れ合う施設づくり」を行った。支援にあたっては、本法人が長年培ってきた『受容的交流による利用者支援』を基本方針とし、「相談支援事業」「地域支援事業」「早期支援事業」と「指定相談支援事業所」の運営を行った。本年度は、ここ数年の継続課題となっていた「利用者数増加による初回面接（インテーク）待機の長期化」への対策として、事業の配分や利用の仕方を一部変更してのスタートとなった。わかばの家の役割として、①「相談の枠組みでの支援を充実させる」、②「療育の体制は大田区全体で考える（原則、わかばの家の療育と受給者証利用による民間療育機関との併用は不可）」、③「地域支援事業を充実させる」という方向性のもと、特に「初回面接（インテーク）の待機期間を減らすこと」と「保育園や幼稚園等での支援力向上のための支援」に力を入れて取り組んだ。結果として、相談の待機期間については、大幅に短縮することができた（→2ヶ月程度）。幼稚園・保育園等への支援については、職員研修としての新しい試みを積極的に企画実施し、一定の成果を確認できたが、いくつかの課題も残った。次年度は、新たに「西六郷分室」が開設され、わかばの家全体の機能を4施設体制として、再配置、拡充することになっている。区からの要請のもと、さらなる相談機能の充実と地域支援の強化

を目指す。

## 2. 法人本部

### (1) 法人運営

#### 1) 理事会・評議員会関係

##### ① 理事会並びに評議員会の開催状況

###### ア 理事会

回	開催日	出席数	議事内容
1	2019.6.7	5	平成30年度事業報告、平成30年度決算報告、定款の変更、諸規程の整備、2019年度第2回評議員会（定時評議員会）
2	2019.6.24	5	理事長の選定、常務理事の選定
3	2019.7.26	決議省略	諸規程の整備
4	2019.10.7	5	定款の変更、基本財産担保提供、2019年度資金収支補正予算、諸規程の整備、2019年度第3回評議員会、理事長及び常務理事の職務執行状況
5	2019.10.16	5	理事長の選定、2019年度第3回評議員会
6	2019.12.13	6	2019年度資金収支補正予算、評議員選任・解任委員会委員の選任
7	2020.1.17	4	2019年度第4回評議員会、評議員候補者の推薦、評議員選任・解任委員会の開催、施設長人事
8	2020.3.16	5	2019年度資金収支補正予算、2020年度事業計画、2020年度資金収支予算、諸規程の整備、施設長人事、職員の定年後の継続雇用、第三者委員の委嘱、理事長の職務執行状況、評議員選任・解任委員会の結果

###### イ 評議員会

回	開催日	出席数	議事内容
1	2019.4.12	5	定款の変更、基本財産担保提供承認申請
2	2019.6.24	4	平成30年度事業報告、平成30年度決算報告、定款の変更、理事の選任、監事の選任
3	2019.10.25	6	定款の変更、基本財産担保提供、理事の選任
4	2020.2.5	5	理事の選任

##### ② 監事による監査

###### ア 監査実施日

- ・会計監査…2019年5月16日(木)
- ・事業監査…2019年5月17日(金)

イ 実施場所

- ・会計監査 嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦
- ・事業監査 子どもの生活研究所（法人本部）

ウ 監査内容

2018年（平成30年）度における理事の業務執行状況及び法人の財産状況

エ 監査結果

事業実施報告、決算書、決算附属明細表ならびに財産目録は適正

③評議員選任・解任委員会

- ア 開催日 2020年2月5日(水)
- イ 開催場所 法人本部（子どもの生活研究所）
- ウ 内容 評議員の退任に伴う選任について
- イ 委員

選出区分	氏名	職業等
監事	大森 行雄	大森行雄税理士事務所 税理士
事務局員	小池 朗	板橋区立赤塚福祉園園長 本部事務局次長
外部委員	矢島 卓郎	目白大学人間学部人間福祉学科 教授・学部長
外部委員	古屋 龍太	日本社会事業大学専門職大学院 福祉マネジメント研究科 研究科長

2) 法人の事務処理体制

① 経理関係

	会計責任者	出納職員	契約担当者	現金保管責任者
職・氏名	理事長 石井 啓	事務局長 亀谷一雄	理事長 石井 啓	事務局長 亀谷一雄
発令月日	2019. 10. 16	1997. 4. 1		

② 公印等管理

	代表者印管理	法人印管理
職・氏名	理事長 石井 啓	理事長 石井 啓

3) 資金関係

① 寄付金

寄付者	目的	金額
一般寄付者他	運営費(本部)	10,063,410
一般寄付者他	運営費(施設)	15,650,573
合計		25,713,983

② 地方公共団体補助金

東京都	サービス推進費他	225,236,694
世田谷区	運営費他	375,215,123
千葉県	サービス推進費割愛分他	26,469,400
千葉市	サービス推進費割愛分	1,826,000

袖ヶ浦市	相談支援事業委託料他	4,586,512
板橋区	委託料	423,719,000
清瀬市	〃	83,188,000
大田区	〃	333,556,398
狛江市	運営費	2,187,530
木更津市	巡回相談料	560,000
合 計		1,476,544,657

4) 実施事業一覧

※2020年3月31日現在

事業拠点	事業所	施設種別	施設長氏名	定員	職員数
子どもの生活研究所 【療育】	めばえ学園	障害児通所支援（児童発達支援センター）*2	樋口美津子	20	10
	おおらか学園	障害福祉サービス事業（生活介護）*2	沼倉 実	23	16
	子どもの生活研究所（相談部・こぐま学園）	児童の福祉増進につき相談に応じる事業		—	1
	東京都発達障害者支援センター（トスカ）	公益事業	沼倉 実	—	8
子どもの生活研究所 【保育】	すこやか園（ゾウ、クワ、キノ）	認可保育所*2	稲垣 修	96	42
	宇奈根なごやか園（カモシカ）	認可保育所*2	佐瀬美穂	80	33
	鎌田のびやか園（ライオン、シロクマ）	認可保育所*2	坂田 朗	97	28
	すこやか広場	地域子育て支援拠点事業	稲垣 修	—	—
嬉泉福祉交流センター 袖ヶ浦	袖ヶ浦のびろ学園	福祉型障害児入所施設 *1	井上光孝	50	34
	短期入所 袖ヶ浦のびろ学園	障害福祉サービス事業（短期入所）	井上光孝		
	袖ヶ浦ひかりの学園	障害者支援施設 *1	石井 啓	53	51
	短期入所 袖ヶ浦ひかりの学園	障害福祉サービス事業（短期入所）	石井 啓		
	地域生活支援センター たのしみ	相談支援事業、障害児通所支援*2	石井 啓	—	10
	日中一時支援 たのしみ	日中一時支援事業	石井 啓		
	グループホーム 春のひかり	障害福祉サービス事業（共同生活援助）	石井 啓	4	1

		*2			
	袖ヶ浦市福祉作業 所うぐいす園	障害福祉サー ビス事業（生 活介護） *2	石井 啓	1 2	4
		障害福祉サー ビス事業（就 労継続支援B 型） *2		3 0	
板橋区立赤塚福祉園	ディセンター きらら	障害福祉サー ビス事業（生 活介護） *2	小池 朗	6 0	3 2
	ワークセンター はばたき	障害福祉サー ビス事業（就 労継続支援B 型） *2	小池 朗	4 0	1 0
	赤塚ホーム	板橋区緊急保 護事業	小池 朗	8	1 0
清瀬市子どもの発達支援交流センター (とことこ)		公益事業	岩澤寿美子	—	9
大田区立こども発達センターわかばの家		公益事業	大岩香代子	—	4 6

注) 事業の種類 \*1: 第一種社会福祉事業

\*2: 第二種社会福祉事業

職員数: 常勤職員

## 5) 施設整備

### ① 嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦

- ・袖ヶ浦ひかりの学園施設整備事業

総費用 595,685,760円

(借入金300,000,000円 自己負担295,685,760円)

## (2) 経営管理室

### 1) 職員採用

#### ① 2020年度に向けた新規職員採用の概要

ア 新卒者については、経団連の就職協定である3月広報活動解禁、6月選考活動解禁、10月内定解禁が継続され、この枠組みを外す形でインターンシップの名のもとに実質的会社説明会が早期に実施された。学生の就職活動開始も全般的に早期化の傾向にあり、これに対応するため本年度もマイナビ2020を稼働させ、早期新卒の囲い込みを実施した。

一方、従来からの福祉系学生（保育士養成校を含む）の就職活動が秋以降から本格化する傾向も継続しておりこの動向に合わせた採用活動も実施した。

説明会を4月から5回開催し、一定数の学生の参加を得た。しかし、学生の

情報ソースの多元化は急速に広がっており、その動向にも合わせて採用活動を展開することとなった。

2019		応募	説明会 のみ	内定	辞退	新規採用	期中採用	新卒	既卒
第1回	4月20日	7	6	4	1	2	1	2	1
第2回	5月25日	8	6	5	2	2	1	2	1
第3回	6月29日	8	9	6	2	4	0	3	1
第4回	9月21日	7	8	4	1	3	0	2	1
第5回	10月26日	9	7	4	0	3	1	3	1
第6回	11月30日	中止							
個別	子研	114		12	0	7	5	3	9
個別	袖ヶ浦	38		17	0	5	12	0	17
合計		191	36	52	6	26	20	15	31

(註) ・昨年から説明会、第1次面接を袖ヶ浦にて積極的に実施しているが、本年は更に多く実施した。この結果新規採用5名、期中採用12名と、大幅採用増に繋がった。

イ 有料求人フェア「Face to Fukushima」に出展した。NPO法人が運営しているが、新卒者に対するきめ細かな対応が新卒学生の評価を得ている。多くの新卒学生がブースに来訪し、4名の採用に繋がった。

ウ ハローワークとは、特に渋谷、木更津ハローワークと緊密に連携を保っており、既卒者採用の大きなツールとして機能している。

エ 応募者の求職活動の求人ソース多様化傾向は更に加速化しており、東社協（東京都人材福祉センター）が運営する「福祉のお仕事」サイト、世田谷区が運営する「世田谷保育ワーク」サイト、心理職募集サイトからの応募は採用実績につながった。

本年度は、新たに「求人BOX」「知的障害者ポータルサイト」からの応募が急増し多くの採用に繋がった。また、NETを中心に求人仲介を行っているINDEEDが、ハローワーク等の求人を転載告知している結果、その告知を窓口到他媒体を通じて、あるいは直接法人への応募といった新たな傾向も増加した。但しこの流れでの応募者は、なかなか求人内容とのマッチングが難しく、採用には繋がり難い結果となっている。上記表で子研の内定率の低さはこれが大きな理由となっている。

オ マイナビが、福祉・医療系に特化した、中途・経験者採用向け優良求人サイトを新規に開設したので、年度途中から次年度に向けて1年間運用する契約を締結した。引き合いはあるがまだ採用には至っていない。

求人ソース	応募	採用	内新卒	詳細
ハローワー	26	8	0	渋谷

ク				若者 ハートフル 木更津 他
就職フェア	7 8	4 2	4 2	Face To Fukushi 福祉のお仕事フェア
WEB	9 11 2 15 61 19 3	3 1 0 3 6 5 1	1 0 0 0 1 0 0	東京都人材福祉センター 世田谷保育ワーク 保育パートナーズ 求人BOX 知的障害者ポータルサイト 嬉泉HP 心理HP
有料媒体	9 9	3 0	3 0	マイナビ マイナビ 福祉・医療 タウンワーク 紹介派遣
縁故	2 4  1 5	1 3  1 5	0 3  1 0	法人職員紹介 学校紹介 東京都市大 白梅学園大 新渡戸文化短大 実習 すこやか 非常勤より職変
計	191	46	15	

#### カ 内定者確保のための施策

- (1) 1月8日に、袖ヶ浦に内定者を集め懇談会を実施した。内定者間の関係が深まり法人職員としての意識付けが高まった有効な企画として定着している。
- (2) 内定者に対して、夏休みアルバイトのオファーを行い、3名の内定者が参画した。

#### ② 常勤職員採用結果

		支援員	保育士	相談員	厨房	事務等	医務	計
男女別	男	3	0	0	1	1	0	5
	女	17	10	4	1	4	5	41
新既別	既卒	13	4	3	2	4	5	31
	新卒	7	6	1	0	1	0	15
学歴別	院卒	0	0	3	0	0	0	3
	大卒	9	9	1	0	1	0	20
	他	11	1	0	2	4	5	23
	計	20	10	4	2	5	5	46

### ③ 職員数の推移

2014年4月1日から2020年4月1日の間の職員数の推移は下表の通りである。

	常勤職員	非常勤職員	派遣社員	計
2014年4月1日	335	141	2	478
2015年4月1日	360	156	2	518
2016年4月1日	367	160	1	528
2017年4月1日	343	136	2	481
2018年4月1日	352	137	5	494
2019年4月1日	349	131	3	483
2020年4月1日	352	123	2	477

※嘱託契約（医師等）を除く

## 2) 次世代育成・働き方改革係

### ①活動概要

ア 本年度新たに育児休業を取得したものは8名であった。内6名は、2回目の取得であった。育児休業からの復帰予定者12名の内12名（100%）が復帰した。

イ 育児休業者に対しては相談窓口を設置し、円滑な復帰に繋がるようサポート体制を整えた。

ウ 給与支給日を定時退社の日と定め全事業所で実施した。

労働時間管理、休暇管理についても事業所長が率先して働きやすい職場にすべく努めた。

エ 採用活動での告知を強化

2018年3月26日第2期くるみん認定を受け新しいくるみん認定マークの求人票への掲載（募集要項、ハローワーク求人票）を、えるぼし、東京都女性活躍推進優秀賞受賞と合わせて採用説明会で応募者への説明を実施した。

オ 次世代育成、働き方改革係の活動として、次年度くるみんマーク更新

に向けて、各種規則早見表の更新、男性の育児休業取得促進に向けた就業規則の改定、働き方改革に関わる職員アンケート、に取り組み

これらを実現させた。規則早見表は外装を整え各事業所に配布した。男性育児休業取得については有給の特別休暇を1日追加し、従来ある出産に関わる特別休暇を柔軟に取れるよう変更することにより育児休業が男性でも取りやすい体制を整えた。アンケート結果については事業所ごとに結果を取りまとめ、事業所ごとにより働きやすい職場への改善に取り組んでいくこととした。



カ 2020年4月1日施行予定の「パートタイム、有期雇用労働法」改正に対応する為、非常勤職員の年次有給休暇取得に関する規定及び非常勤職員の超過勤務手当の係数に関する規定を改定した。

## ②育児休業取得実績

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	2019年度
子研	1	1	5	11	5	5	8	3	1
セタック	1	1	3	3	3	0	—	—	—
袖ヶ浦	1	2	3	2	2	2	3	1	0
赤塚	0	1	2	1	1	1	2	3	1
清瀬	0	0	0	0	1	0	2	0	0
大田	—	1	0	3	0	6	4	1	6
計	3	6	13	21	12	14	19	8	8
備考				くるみ みん認定 取得			2期くる みん認定 得 (2018 年認定)	えるぼし 三ツ星  東京都 表彰	

※実績人数は、育児休業開始日の属する年度

## ③女性活躍推進法への取り組み

ア えるぼし三ツ星認定を継続するには、公開データの年度ごとの更新が必要な為、これを実施した。



イ 採用、人事面など必要とされているデータは全てクリアしており今後もすべての職員が輝ける職場を目指しく。

## 3) キャリアパス策定プロジェクト

### ①運用開始

- ・本年度より本格運用を開始した。
- ・まず前年度中に全職員を対象に育成アセスメント票を、職員とその育成者が作成した。
- ・本年度に入り、前年度中に作成した育成アセスメント票に基づき育成研修シートを作成し、職員個々の育成計画の策定、研修計画の策定、その実施へと移行した。
- ・この育成、研修計画については期中にモニタリングを行い、年度末に振り返り、次年度計画へ結びつけるサイクルで継続していく。

### ②人事考課への反映

- ・キャリアパス取り組み状況（育成活動への取り組み状況）を人事考課に反映し、基本考課として評価する。その他業務実績等を加点的に評価し、人事考課の最終評価を決定する。
- ・以上の考え方を軸に、新人事考課制度を策定した。
- ・今年度はキャリアパス運用開始に事業所間で差があったので新人事考課については試行運

用との位置付けで実施し、次年度以降本格運用する。

③キャリアパス策定プロジェクト委員会

- ・育成活動の進捗状況の確認、各職層の役割、等に関してモニターし必要な対応を行った。
- ・次年度以降はキャリアパス運用委員会として活動を継続する。

④キャリアパスアンケートの実施

- ・キャリアパス運用の改善に資するため、職員全員、育成者、管理者のそれぞれにアンケートを実施した。実施結果を取りまとめの上次年度以降の運用に活かしていく

(3) 研究啓発局

1) 法人主催の職員研修

①新任職員フォローアップ研修

日時：2019年6月22日（土）

場所：嬉泉福祉交流センター〔袖ヶ浦〕

目的・内容

- \*支援・仕事をする上で大事に考えていることを伝え、理解を深める。
- \*職員相互の交流を深める。

参加職員：44名（2019年度新規職員22名と中途採用職8名。

場長・園長10名、研修係とスタッフ4名。）

事前にアンケートを取り、新人職員の現状や問題点を把握するように努め、活動のグルーピングを行った。入職後数か月を経ていることで、法人内の他事業所の情報交換や、状況や気持ちの共有など、交流を図れたようだった。

講義も、日々の自分自身の実践を振り返りながら、受容的交流の理解に少しつなげることが出来た。また経験を積んでいる職員も、現在、受容的交流についての話を聴く機会がないので、各事業所から聴講者を積極的に選出するなど検討の余地はある。

②療育合宿研修

ア．夏季療育合宿

日時：2019年8月17日(土)～19日(月)

場所：嬉泉福祉交流センター〔袖ヶ浦〕

目的・内容：

- ・自閉症児・者と生活をともにしながら、『受容的交流』を体験的に学ぶ。特に日常業務において、一定程度経験を積んだ職員の支援能力の向上、グループ等の運営能力の向上に主眼を置く。
- ・日常とは違ったスーパービジョン体制の中で、個々の職員が自分を見直し、研修課題に取り組む。

参加利用者：10名

参加職員：16名（研修対象職員11名、研修係5名）

イ．冬季療育合宿

日時：2019年12月21日(土)～23日(月)

場所：嬉泉福祉交流センター[袖ヶ浦]

目的・内容：

※夏季療育合宿と同

参加利用者：8名

参加職員：16名（研修対象職員10名、研修6名）

ここ数年の課題にはなっているが、合宿参加職員の選出が各事業所の運営上等の理由でやや難航したが、法人全体の協力を得て研修体制を整えることができた。研修の取り組みとしては、各職員が自身の課題を明確にして主体的に取り組む姿がみられていた。

### ③全体職員研修

日時：2020年2月8日(土)

場所：浦安ブライトンホテル東京ベイ

テーマ：『受容的交流理念の基本』

1部 2020年度方針説明・人事考課説明

2部 2020年度方針説明を受けて 受容的交流理念の基本を考える  
座談会・バズセッション

3部 懇親会

参加職員：230名(全職員対象)

新理事長から法人理念実現に向けた体制強化等についての説明、支援テーマの提示があり、それを受けて研修企画係との座談会、全職員によるバズセッションが行われた。新しい人材育成主義型人事考課体制の説明も含め、法人全体で人材育成に注力していくことを確認した。

### ④新人研修

※今年度は実施せず(新型コロナウイルス感染拡大のため)

### ⑤事業所間職員交流研修

- ・各拠点における夏祭りや餅つき等の季節行事の際、それぞれ各事業所に職員の研修参加を呼びかけ、随時交流研修を実施した。また各事業所間（療育や保育間）で、各職員の研修目的で事業内容の見学及び現場体験等も実施した。嬉泉職員の交流は、職員のマスが大きくなるにしたがって難しくなっていると感じられる。引き続き行事など、様々な機会を利用してさらに積極的に交流の機会を持ち、嬉泉のアイデンティの確認・強化していくことがのぞまれる。

## 2) 広報・啓発事業

### ①自閉症実践療育セミナー

※今年度は実施せず

### ②「嬉泉の新聞」の発行

「嬉泉の新聞」では、福祉関係有識者や法人理事等の関係者による巻頭言、法人内トピ

ックスの紹介、運営・財務にかかわる情報等、法人に関わる各種情報の公開等を行なっている。本年度からの新しい試みとして「嬉泉職員によるリレーエッセイ」の掲載を開始した。年2回の定期発行とし、作成した新聞は、法人関係者、協力者、関係諸機関・団体等に無料配布している。また、嬉泉をより理解いただくために、嬉泉バザーや嬉泉祭りバザーで広報コーナーに置いたり、職員採用説明会等で配布をしている。

●発行状況：第80号（10月発行）／ 第81号（3月発行）

●発行部数：第80号 2,500部 ／ 第81号 2,500部

●内容：

<第80号>

- ・「袖ヶ浦ひかりの学園」の増改築  
袖ヶ浦ひかりの学園増改築工事業にご寄附を頂いた方一覧
- ・「平成29年度社会福祉法人嬉泉 事業報告／決算報告」
- ・第55回嬉泉バザーのお知らせ
- ・第41回嬉泉祭りバザー報告
- ・台風15号被害報告

<第81号>

- ・「理事長に就任して」 社会福祉法人嬉泉 理事長 石井啓
- ・社会福祉法人嬉泉2020年度基本方針
- ・前理事長須藤祐司を偲ぶ
- ・第55回嬉泉バザー報告
- ・職員によるリレーエッセイ

#### ③ インターネット・ホームページ管理

「嬉泉新聞」とともに、本法人にかかわる各種情報の公開を目的として、よりアップ・トゥ・デイトな情報を発信するために、平成29年度にホームページリニューアルを行い、適宜有効に活用している。本年度は、嬉泉新聞1号（1985年5月発行）から79号（2019年3月発行）までのアーカイブを作成し、閲覧可能とした。

ホームページの主な掲載内容

- ・インフォメーション（嬉泉バザー開催のお知らせ他）
- ・嬉泉について
- ・嬉泉事業所案内
- ・法人公開情報（運営財務に関する公開情報他）
- ・採用情報
- ・アトリエ・アウトスについて
- ・嬉泉新聞アーカイブ

#### ④ 法人パンフレット・事業所パンフレット

法人の総括的パンフレットは本年度改訂を行った。各事業所がそれぞれに作成した事業拠点ごとの事業所パンフレットとともに、本部及び各事業所において活用し

ている。

⑤ アトリエAUTOSの活動内容

・作品販売

「社会福祉法人嬉泉における著作権物の取扱内規」を作成し、ギャラリー段々色と委託販売契約を結んだ。

・作品展開催

ア アンシエヌヌ藍（社会福祉法人藍 就労B事業所レストラン 三軒茶屋）コラボレーション企画展 アトリエ・アウトス展 作家個展

・期間：秋山良江・住江展：2019年6月3日～6月28日

『藍』展：2019年9月2日～9月27日

『紅』展：2020年3月1日～4月24日（4/24終了日予定だったが延期）

・場所：三軒茶屋 レストラン・アンシエヌヌ藍

・企画：社会福祉法人藍

イ アトリエ・アウトス展～自閉症その内的世界の表出14～ 主催

・期間：2019年6月12日～6月21日

・場所：玉川高島屋S・C南館6階ホワイトモール

・企画：東神開発株式会社

・後援：世田谷区

ウ アトリエ・アウトス展 主催

・期間：2019年11月12日～11月17日

・場所：世田谷美術館区民ギャラリーB

・後援：世田谷区

エ 騒ぐイマジネーション 障害のある作家展2020 出展

・期間：2020年1月15日～1月21日

・場所：めいてつ・エムザ（石川県金沢市）5階美術サロン

・協力：段々色ギャラリー

■その他

ア 2020年カレンダー（ポストカード仕様）制作販売および配布（1000セット作製）

イ 段々色の紹介による額装業者に作品10点の額装を依頼

（4）本部事務局

1) 須藤祐司先生を偲ぶ会

・2019年10月に逝去された故須藤祐司前理事長を偲ぶ会を開催した。

・期日：2019年12月18日（水）

・場所：浦安ブライトンホテル

2) 福利厚生

① 新人職員歓迎会

・目的・内容：辞令交付式と同日に開催。新任職員を歓迎し、先任職員との交流を行

った。

・期日：2019年4月1日（月）

・場所：子どもの生活研究所

② 旅行予約サイト『じゃらんコーポレートサービス』を活用し、職員の有給休暇の計画的な取得促進を図った。

③永年勤続表彰

・目的・内容：勤続10年以上の職員を対象に、全体職員研修において表彰を行った。

・期日：2020年2月8日（土）

・場所：浦安ブライトンホテル

3) バザーの開催

① 第55回嬉泉バザー

ア 期日；2019年11月10日（日）

イ 場所；子どもの生活研究所

ウ 会計報告（単位；円）

係	純益
献品	285,340
産直・委託	91,630
子どもコーナー	27,860
食堂	259,732
アウトス他	44,150
後援会	28,876
総務	292,274
合計	1,029,835

② 第4回嬉泉ふれあい祭りバザー

※台風15号の影響により中止

4) 運営改善・人権擁護等

① 苦情解決

ア 苦情解決実績

2019年度中の苦情申出件数 0件

イ 苦情解決第三者委員

事業所	氏名	性別	推薦区分	職業等
世田谷	小沼肇	男	関係団体	日本社会事業大学客員教授
	安藤真洋	男	関係団体	社会福祉法人武蔵野理事長
	金子恵美	女	関係団体	日本社会事業大学教授
袖ヶ浦	請井征力	男	関係団体	社会福祉法人佑啓会市原市福祉会館館長
	宮本秀樹	男	関係団体	常磐大学コミュニティ振興学部准教授
	小島直子	女	地域代表	袖ヶ浦市民生委員・児童委員
赤塚	関谷公二	男	地域代表	泉福寺住職（元篠ヶ谷戸町会長）
大田	瀧下史代	女	地域代表	入新井地区民生委員

	岡崎照幸	男	地域代表	馬込地区民生委員
	守安富美子	女	地域代表	田園調布地区民生委員
清瀬	池永和子	女	地域代表	清瀬市民生児童委員協議会会長

② 第三者評価事業の受審

下記施設・事業において、東京都認証機関による第三者評価事業を受審した。

ア 児童発達支援センター子どもの生活研究所めばえ学園

イ 障害福祉サービス事業所おおらか学園

ウ 福祉型障害児入所施設袖ヶ浦のびろ学園

エ 障害者支援施設袖ヶ浦ひかりの学園

③ 人権擁護委員会、事故防止委員会、サービス評価委員会等、各拠点から選出された職員による法人の各種委員会の活動を通して、職員の運営改善・人権擁護に対する意識向上に努めた。

[役員・評議員名簿]

【役員】

理事長 石井 啓 (福)嬉泉 袖ヶ浦ひかりの学園 園長  
理事 高橋利一 (福)至誠学舎立川 顧問  
潮谷義子 元(学)日本社会事業大学 理事長  
山根美江子 (福)嬉泉 保育・療育統括アドバイザー  
亀谷一雄 (福)嬉泉 本部事務局長  
沼倉 実 (福)嬉泉 おおらか学園 園長  
監事 中島健一 (学)愛知学院大学 教授  
大森行雄 大森行雄税理士事務所 税理士

\*任期： 2019年度定時評議員会より2021年度定時評議員会まで

【評議員】

評議員 吉岡則重 元 東京都福祉保健局 次長  
安田正貴 元(財)世田谷区保健センター 理事長  
渡邊慶一郎 東京大学学生相談ネットワーク本部 准教授  
金子尚弘 元(学)白梅学園 白梅学園大学子ども学部 教授  
小島直子 袖ヶ浦市社会福祉協議会 副会長  
田村紀子 一般社団法人親泉会 常務理事  
前川長慶 嬉泉後援会 会長

\*任期： 2017年4月1日より2021年定時評議員会終結時

# 年間行事等実施報告

2019年度

項目 月	行		事		職員研修・職員会議等		広報・啓発事業		職員採用		その他	
	日	内 容	日	内 容	日	内 容	日	内 容	日	内 容	日	内 容
4月	1	辞令交付式・新人歓迎会			24	場長会（子研）			20	採用説明会	12	評議員会
5月					23	場長会（清瀬）			25	採用説明会		監事監査(16,17)
6月					26	場長会・園長会（子研）	12	アトリエ・アウトス展	29	採用説明会	7	理事会
					22	フォローアップ研修		(~21)			24	評議員会
7月	13	赤塚夏祭り	21	子研夏祭り	31	場長会（袖ヶ浦）						
	19	袖ヶ浦夏祭り	28	わかば夏祭り								
8月					17	夏季合宿研修（~19）						
					28	場長会（赤塚）						
9月	8	子研秋を楽しむ会			26	場長会（袖ヶ浦）			21	採用説明会		
10月		嬉泉ふれあい祭り（中止）			24	場長会・園長会（子研）			26	採用説明会	16	理事会
											25	評議員会
11月	11	嬉泉バザー			27	場長会（袖ヶ浦）	12	アトリエ・アウトス展				
								(~17)				
12月	18	須藤祐司先生を偲ぶ会			18	場長会（浦安ブライトンホテル）					13	理事会
					21	冬季合宿研修（~23）						
1月			7	袖ヶ浦餅つき	22	場長会（赤塚）			8	内定者懇談会	17	理事会
			11	子研餅つき								
			15	子研〔保育〕餅つき								
2月					5	場長会（子研）					5	評議員会
					8	職員全体研修					5	評議員選任・解任委員会
					26	場長会・園長会（子研）						
3月					4	場長会（子研）					16	理事会
						新人研修（中止）						

